

令和4年度学校自己評価システムシート (県立和光高等学校)

目指す学校像	創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校
--------	---------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 意欲を育て、ひとりひとりの力をしっかりと伸ばす学習指導 ルールと時間を守り、思いやる心と社会性を養う生活指導 自分自身を正しく理解させ、自尊・自信を築く進路指導 協力と汗を流すことを尊ぶ、活気ある学校行事と部活動の充実及び地域への貢献
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名(紙上参加含む)
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 6 日 現 在)		
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 2 6 日 現 在)				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年間の少人数学級編制に魅力を感じ、高校での学びなおしを目的に入学する生徒が多い。 全学年、学級、講座でGoogle Classroomを活用している。 新教育課程、観点別評価が今年度入学生から実施された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学段階では基礎学力の定着に課題を抱える生徒が一定数おり、学習への取り組み方について丁寧なサポートが必要である。 新教育課程、観点別評価実施に向けて教職員の共通理解を図る必要がある。 Google ClassroomをはじめとするICTの効果的な活用をすすめる。 	さらなる授業力向上の推進	<ol style="list-style-type: none"> 教員相互の授業見学 新課程、観点別評価に関する情報共有 授業評価アンケート、授業参観でのアンケート実施 研究授業の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 教員間の授業見学参加者数 職員研修、研究協議への参加者数 授業評価アンケート等の結果 研究授業の実施回数 	<ol style="list-style-type: none"> 延べ40名が授業見学し、意見を交換することで授業改善につなげた。 教育課程委員会が主体となり、観点別評価実施に向けた校内体制の構築に取り組んだ。 授業評価アンケートでは、授業への取組度、満足度、分かりやすさへの肯定的回答がいずれも90%以上であった。 外部講師(県指導主事)を招いた研究授業を国語・数学・音楽で実施し、授業力向上に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習への取組状況は年々向上している。特別支援の観点からのサポートを要する生徒も増加していることから、様々な人的資源(巡回支援員、SCなど)との連携をさらに強化する。 さらなる授業力向上に向け、ICTの活用をはじめとする授業改善に継続的に取り組む。 観点別評価の取組を振り返り、成績不振生徒へのフォロー体制の改善を図る。
		生徒の実態に即した学習支援の推進	<ol style="list-style-type: none"> 2年間の少人数学級編制の継続 朝学習や考查前補習などの実施 Google Classroomのさらなる活用 	<ol style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果 成績優良者数、不振者数の変化 オンラインによる学習指導の活用例 	<ol style="list-style-type: none"> 少人数学級編制への評価は高い(肯定的回答:保護者99%、生徒91%) 1学年の評価方法が昨年度と異なるため単純比較は難しいが、概ね昨年度と同様である。 1人1台タブレット導入に向け、職員研修を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業は地域の中学校教員も招き実施した。今後も校種を超えた研究会を実施し、授業力向上に取り組んでいく。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活におけるルール・マナーの遵守に課題がある。特に、頭髪・服装を正せていない。 年間遅刻者数がのべ2000人と、高い水準である。 登下校時の交通事故件数が、高い水準である。 場に応じた行動ができず、問題行動も発生している。 人間関係の形成や家庭環境などに多様な課題を抱えている生徒が増加している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 規範意識の醸成および基本的な生活習慣の定着。 外部機関や家庭と連携した組織的な教育相談体制の確立。 SST(ソーシャルスキルトレーニング)の充実。 	規範意識の醸成および基本的な生活習慣の定着	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の時間管理意識向上させる取り組みの充実。(5分前行動、チャイム着席の徹底、遅刻指導等) 全校統一基準による各種指導の充実。(頭髪服装指導、自転車マナーアップ等) 	<ol style="list-style-type: none"> 全体遅刻数・欠席数の減少 整容違反者の数の減少 交通事故件数の減少 	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻数は減少した。(12月末日現在1121件、昨年比76%)一方、欠席数は増加した。(12月末日現在3092件、昨年比115%) 整容違反者に違反チケットを切り指導状況を教員間で共有することで組織的な指導が可能となり、整容指導対象者は大幅に減少した。 通院を要するような大きな事故はなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> これまでの指導の積み重ねが遅刻者数減少につながっている。今後も教員同士の連携のもと指導を継続していく。 「早寝早起き」「あいさつ」「教室内の整理整頓」「頭髪」等のキャンペーン活動を行うことで、従来の「課題解決的」指導から「発達支持的」「課題予防的」指導へと転換させた。これにより「生徒のよい行動を支持する」教育活動が実践できた。 年度当初の欠席数は少ない傾向にあったが、徐々に増加していった。次年度は、生徒の出席に対する意識や規範意識の低下を防ぐためのキャンペーン活動を年間を見通して適時適切に行う。 望ましい人間関係育成のため、ソーシャルスキル育成を目的とした教育活動を実施していく。
		組織的な教育相談体制の確立およびソーシャルスキルの向上・定着	<ol style="list-style-type: none"> SC・学校相談員・特別支援教育巡回支援員等と連携した、情報共有や問題解決。 LHRや特別活動を生かしたSSTの実施 	<ol style="list-style-type: none"> 年間委員会開催回数の増加 行事事後アンケートの満足度の上昇 	<ol style="list-style-type: none"> 部会、いじめ防止委員会を定例に加え、必要に応じ適宜開催し、生徒の細かな様子を共有した。 学校評価アンケートで「行事の活発さ」について肯定的評価が増加した。(生徒92%(昨年比7割増)、保護者90%(昨年比6割増)) 	A	
3	<p>【現状】</p> <p>体系的な進路指導を計画・実施しているが、生徒の進路希望が多岐にわたり、実態も多様である。就職と進学は概ね半々であるが、進路方針がなかなか定まらない生徒もいる。</p> <p>・生徒の多くは進路活動には意欲的であるが、自らの適性に合った進路選択について決められず、スタートが遅れてしまう生徒がいる。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早い段階から具体的な進路目標を見据えさせるための段階的なキャリア教育の充実が必要であり、特に「職業観」についての理解を深められるような内容をガイダンス等に取り入れていく必要がある。 就職希望者において、内定を得る時期に大きな差が生じている。早期に内定を得られるよう指導していく必要がある。 オンラインでの会社見学や面接試験、WEB出願など、インターネットを使った進路活動が基本ベースになってきているため、WEB環境の整備を進めていく必要がある。 進学者(指定校推薦)の面接指導について、就職希望者同様、組織的な指導を行なえるよう体制を整えていく必要がある。 	進路の選択肢の把握と進路意識の醸成	<ol style="list-style-type: none"> 「高校生のための学びの基礎診断」の実施と活用 進路面談の積極的な実施 進路ガイダンスの実施による職業観の育成 	<ol style="list-style-type: none"> ①②③授業など学校生活に取り組む姿勢の変化 ③学校評価アンケート(進路)での満足度 ③進路希望調査での未定の減少 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストを実施し、各学年で学力の現状を把握するとともに、進路情報企業との情報共有を行なった。 ③学校評価アンケートから、保護者・生徒ともに進路指導に対しては、約90%の肯定的な評価を得ることができた。3学年4月当初の進路希望調査では、「未定」の者の割合は昨年度に比べて減少したが、例年より進学から就職へ移る生徒の数が多かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中での進路変更の多くは、家庭の経済状況に由来するものであることから、今後は、家庭とも連携して、進学に要する費用面のことも丁寧に説明しながら、早い段階から計画的に指導していく。 「職業観の育成」に向けて、より体験的な活動を早い段階からさせることで、自らの可能性を多角的に考える機会を提供していく。
		早い段階での希望進路決定者の増加	<ol style="list-style-type: none"> ①段階的な進路計画の策定と、各学年での進路行事の実施。 夏の進路特別指導等における組織的・体系的な指導の実施。 資格取得の奨励。 ④オンライン上での学校情報収集、求人票検索等に関する指導の充実。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②進路決定結果の内容 ①②卒業時の進路未定者の減少 ③資格試験の受験者数の増加 	<ol style="list-style-type: none"> ①②現在、3年生の約66%の進路が決定している。学校求人を使った就職希望者の割合は昨年度より高く、内定率は約66%で、例年よりやや低くなっている。1月時点での未内定者数を減らすことが課題である。 ②夏休みの進路特別指導は出席率も高く、全教員による面接練習や履歴書作成指導など、効果的な運営ができた。進学者に対する特別指導も今年度は実施でき、小論文や志望理由書の指導を行なった。また、今年度はwebによる求人票検索システムを導入し、生徒の求人票閲覧環境を大幅に改善することができた。 ③資格試験結果(級数等は省略) 	E	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ、就職試験を複数回受ける生徒の数は減少したが、就職活動の開始が遅れ、1月時点で未内定となる生徒が一定数いる。第1回目の就職試験により多くの生徒が臨むことができるよう、早期からの「職種理解」を進めていく。 今年度より導入したweb求人検索システムは指導上有効に機能した。今後も、より効果的な指導法を考え、実施していく。
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動継続率が低く、活動が停滞気味である。 地域との連携は進んでいるが、ボランティア活動等の参加者が一部の生徒にとどまっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動と行事の活性化により、生徒自身の総合的な人間力の育成。 地域との連携による、開かれた学校づくりの推進。 活動を地域に発信する手法等の工夫。 	部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> 部活動への参加を奨励。部活動での活躍・様子を対外発信。 部活動関係費の充実。 	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動継続率の上昇 ②部活動顧問会議・生徒総会による議論の活性化 	<ol style="list-style-type: none"> ①活動中の18部活動のうち、12部活動で部員数が減少した。上級生は最後までやりきる傾向にある。 ②生徒総会において生徒提案議題で過半数の賛成を得たものは生徒の意見を取り入れながら実施に向けて検討を重ねている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動において、上級生は最後までやりきる生徒が多いが下級生は2学期以降に退部する生徒が出てきているので、継続の大切さを粘り強く伝えていく。今後、学級数、教員数が減少していくことが確実であるが、部活動活性化に向けて可能な限りの取り組みを継続していく。 感染症対策に注意しながら、外部とのつながりを維持して学校行事を実施していく必要がある。やりたいことと出来ることのバランスを取りながら、生徒主導で学校行事を活性化させていく。
		学校内外の諸行事の活性化および地域との連携強化	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会本部や各種委員会が主体となり、地域と連携した魅力ある特別活動の企画運営。 地域での催し物への積極的参加、HP等による情報発信。 	<ol style="list-style-type: none"> ①行事事後アンケートの満足度の上昇 ②連携・協力した外部機関の数の増加 ②HP更新頻度の増加 	<ol style="list-style-type: none"> ①②学校行事は、感染対策をしながら昨年度より多くの企画を実施した。文化祭で中学生や保護者の入場を許可し食品販売なども行った。 ②HPの「今日の和光」の更新53回(12月末現在)。 	A	

学校関係者評価
実施日 令和5年2月3日
学校関係者からの意見・要望・評価
<ul style="list-style-type: none"> 少人数制の取組は、学習面だけでなく、生活面も含めたきめの細かい指導につながっており、成果をあげている。今後も継続してほしい。 来年度のタブレットの導入に際しては、効果的な使用方法や使用場面を研究し、教員にとっても生徒にとっても有効となるよう取り組んで欲しい。なお、タブレットを使用すること自体が目的とならないよう留意してほしい。 遅刻者数の減少等、指導の成果が現れている。望ましい生活習慣の確立は社会生活においても必要不可欠なので、今後も組織的な取組を継続してほしい。 欠席者数減少に向けて、更なる取組に期待する。なお、新型コロナウイルスの影響もありこの3年間はイレギュラーの部分もあったと思う。来年度からは新型コロナウイルスに関する状況も変わるので指導の充実を期待している。 生徒のやりたいと思うことが実現できると良い。そのための情報提供を早めにしていくと良い。例えば、進学について、推薦入試の制度や、進学に必要な経費についても早い段階から保護者への情報提供をすると良い。 資格取得を促す取組はとても良い。様々な体験や資格取得が進路実現につながることもあるので、幅広く学習させることが有効である。来年度も継続してほしい。 部活動を最後までやりきる生徒が増えるよう働きかけを継続してほしい。 部活動以外にも様々な体験の場があると良い。 今後、現在の規模で部活動を継続することは難しいので、学校の状況・生徒のニーズ・教員の負担も考慮しながらやれることをやっていくと良い。